

平成27年度第1回鎌ヶ谷市廃棄物減量等推進審議会 会議録

開催日時	平成27年7月27日（月） 午後2時から午後4時まで
開催場所	鎌ヶ谷市本庁舎3階 303会議室
委員出席者	伊藤勝、和田光誉、渡部郷勝、小山与之子、松林百合子、佐藤洋一、北川勝治（欠席者：古瀬洋司、浅海靖弘）（以上敬称略）
事務局出席者	小高仁志（クリーン推進課課長）、富田浩司（クリーン推進課課長補佐）、山崎嘉也（クリーン推進課業務係長）、木村我道（クリーン推進課計画管理係）
傍聴者	なし

< 審議内容等 >

1 会議の成立について

鎌ヶ谷市廃棄物減量等推進審議会の委員定数9名に対し、出席委員7名であり、会議は成立した。

2 会議録の署名人の選出について

市内在住委員の名簿掲載順で、出席委員の中から、会議録署名人は渡部委員、小山委員に決定した。

————— 今回の会議は傍聴者なし —————

3 議題（1）会長選出

互選により伊藤委員に決定

4 議題（2）副会長選出

互選により渡部委員に決定

5 議題（3）鎌ヶ谷市の廃棄物・リサイクルの現状について

事務局説明：配布資料「鎌ヶ谷市の廃棄物・リサイクルの現状について」・「鎌ヶ谷市のゴミについて」に基づき概要を説明

質疑応答

和田委員：リサイクル情報はどのような形でごみの譲り渡しや仲介をしているのか。

事務局：リサイクル情報はクリーン推進課に随時窓口や電話で問い合わせをもらい、連絡があれば広報かまがやへの掲載の手続きを行います。また、広報を見た市民の方から連絡があった場合は、直接情報をもらった方と接触をしてもらいその結果だけクリーン推進課に連絡をしてもらいます。主に媒体としては広報かまがやになります。

和田委員：市として窓口を広くしないと数が増えていかないのではないかと。

事務局 : そうですね。

和田委員 : 鎌ヶ谷市の労働生産人口との兼ね合いで在宅率が高まれば当然家庭系ゴミは増えていくと思うが、労働生産人口、特に市内での労働生産人口との兼ね合いはどうなっているか資料があれば教えてほしい。

事務局 : その資料は持ち合わせていないので持ち帰り調査します。

松林委員 : 生ゴミを処理機で処理してみたが、処理した後の生ゴミを最終的にどう処理してよいかわからない。

事務局 : 生ゴミ処理機等でできた生ゴミについては家庭菜園をしている方は肥料として使うことができます。その使い道がない方は最終的な生ゴミを燃やすゴミで出してもらうこととなります。減ることは間違いないので使い道のないご家庭では燃やすゴミとして出していただくしかないのが現状です。

佐藤委員 : ごみ減らしの最大の大きな問題は資源化するという点。有価物資源化回収を長年行ってきて、平成10年頃をピークに回収量が年々減ってきている。当時学校9校で生徒数も多く、大変活発だった。少子化、母親の多忙等、さまざまな理由で平成10年頃をピークに回収量が減っている。紙、布類、ダンボールは、燃やせばただのゴミになるものをリサイクルに回せばコストがほとんどかからない。分類の周知徹底・資源化の推進の告知活動は広報などで長年行っているが、年々厳しい状況になっている。紙類布類はリサイクル資源化をもっと進めていけば純然たる燃やすゴミは減っていくので、良いことづくめである。資源化を押し進めていく必要があるが以前の盛り上がりがなくなってきてしまっている。

小山委員 : 近くのゴミステーションで一番大きなものは、木の枝、雑草である。一時はコンポスターを使ったこともあるが、少しでも枝等を入れてしまうとコンポスターの機能を発揮しない。大きな枝はどのように処理しているか。

佐藤委員 : 燃やすゴミで出している。枝も枯らして水分を減らせば量が減るが本市にはそういった制度はなく、すぐに持って行ってしまう。2・3日ストックさせて枯らせば量が減るので、家庭で行う体制ができればずいぶん違う。

渡部委員 : ゴミステーションをみるとまだ再生できるものが多く出ている。ビン等がたくさん出ているので自治会等で協力することができるのではないかと。ゴミの出し方等を考えれば量は減ると思う。南部社協にいたときに、行事としてクリーンセンターに見学に行き大変勉強になった。ゴミの出し方を知らない人が多いので、そういうことを地域でいろいろやってもらいたい。

佐藤委員 : 一時PTAの役員でバスを貸し切りビンとか缶の処分場に連れていった。大賑わいになったが、年々そのような行事が減ってしまっている。子供を処分場に連れて行って小さい頃から勉強すると良い。分別も若い頃からやっていると違う。

小山委員 : ゴミステーションにゴミネットを張るようになって、カラスに持っていかれることもなくなったので、水色のゴミネットの効果は大きいと思っている。

事務局 : 出し方によってゴミネットは機能しないので、ゴミの出し方をきちんとしている場所は、カラスも学習能力があるので来なくなります。

佐藤委員：リサイクルに出すゴミの中にも無頓着にリサイクルできない物もいろいろ入れて出してしまう人がいる。布類の中にもいろいろな製品を入れてしまう人もいる。特に雨の降る日にリサイクルゴミを出すとダメになってしまう。一人ひとりの意識の向上が必要だ。

事務局：補足でご説明します。放射能の関係ですが、市町村によっては焼却したゴミの放射能が高くて外に持ち出せない自治体もありますが、本市は8,000ベクレルを超えたことはありません。松戸市や柏市は大変苦勞していますが、本市はそれ以下なので普通に処分しています。放射能が多いゴミは特に枝木が多い。本市の一番高い頃は約5,000ベクレルだったが、今はそれ以下なのでその心配はありません。ゴミの分別は永遠のテーマだと思います。一人ひとりがどこまで意識を高めることができるかを考えていかなければなりません。ゴミ分別アプリという興味のない方でもアプリという形で気軽に見ていただける物を作ったので、少しずつ改良しながら周知していきたいと考えています。

松林委員：鎌ヶ谷のゴミの焼却はクリーンセンターしらさぎで全部処分しているのか。

事務局：そうです。

6 議題（4）かまがや環境市民会議委員の推薦について

かまがや環境市民会議委員の組織について、かまがや環境市民会議設置要綱の第3条第3項に「その他市長が必要と認めた者」と定められている。これに基づき、鎌ヶ谷市廃棄物減量等推進審議会から1名推薦することとしているが、このたび鎌ヶ谷市廃棄物減量等推進審議会委員の委嘱替えを行ったことから、改めて同審議会から1名選出することとなった。互選により浅海委員に決定した。

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するため、次に署名する。

平成27年8月31日

氏名 渡部 郷勝

氏名 小山 与之子